



# 八戸高専だより

独立行政法人 国立高等専門学校機構

八戸工業高等専門学校 発行

〒039-1192 青森県八戸市田面木字上野平16番地1

TEL 0178-27-7223 (総務係)

FAX 0178-27-9379

E-mail somu-o@hachinohe-ct.ac.jp

URL <http://www.hachinohe-ct.ac.jp/>

第158号 令和2年8月



## 目次

新型コロナウイルスに対応した学校運営 ……	1	令和2年度 真のグローバル化を考えさせられる年……	14
3主事から ……	2	男女共同参画委員会から ……	15
新入生紹介 ……	3	キャリア教育・支援センターから ……	15
1学年主任から ……	7	図書館の今年度の予定 ……	16
遠隔授業参観日を終えて ……	7	就職・進学状況について ……	17
専攻科新入生紹介 ……	8	学生表彰 ……	18
今年の編入生・留学生紹介 ……	9	授業料等の納付について ……	19
新任教職員紹介 ……	10	学生課学生係からのお知らせ ……	19
北辰寮より ……	12	令和2年度 公開講座 ……	19
相談室から ……	13		

# 新型コロナウイルスに 対応した学校運営



八戸工業高等専門学校長  
圓山重直(まるやま しげなお)

令和2年は新型コロナウイルス問題で始まりました。2月27日の安倍首相による小中高校の臨時休校要請を受けて、学年修了式は中止となりました。さらに3月12日WHO（世界保健機構）のパンデミック宣言などにより、3月18日の卒業式も残念ながら中止せざるをえなくなりました。

こうして令和2年度は異例な状態で学校が始まり、入学式は3密を避けた短縮で行い、保護者の皆様は動画配信による参加となりました。始業式は校内放送で行いました。

本校では、3月30日から教職員による遠隔授業の準備を始めました。4月の第1週で春学期授業と遠隔授業のガイダンスを学生に行いました。2回の模擬授業を行い、準備を始めてから3週間後の4月20日から全学年・全学生に対して、時間割通りの遠隔授業を実施しました。

この遠隔授業は、専攻科生・国内外の留学生を含む全学年の学生891名に対して、1週間に439の遠隔授業を時間割通りに実施し、全学生が大きな問題もなく参加しました。

遠隔授業の全校展開は、教育に対する熱意をもって、不慣れな遠隔授業に膨大な時間を費やした本校教員の努力なくしては、不可能でした。板書形式の授業録画など、本校職員や技術職員の協力に感謝します。また、ほとんど欠席せず、まじめに授業に参加してくれた学生にも感謝します。

遠隔授業を始めてから、学生と教員にアンケートを実施しました。教員アンケートでは、遠隔授業が対面授業より効果的または同等と答えた割合が11%に留まるのに対して、学生アンケートではその割合が58%に達しました。

本校の遠隔授業はオンデマンドによる録画配信なので、学生は分からないところを繰り返し再生することができます。授業録画を毎回止めて内容をノートに記録していた学生もいたようです。

休日（4月29日）に保護者向けに遠隔授業参観を実施しました。つまり、遠隔授業をいつも通

り実施して、学生の受講状況を保護者に見てもらい、その感想をアンケートで集計しました。125件の回答を頂き、「遠隔授業中でも学校にいる時のようにノートなど取りながら集中して授業に向かい、予習や復習もしています。教材準備等ありがとうございます」、「遠隔授業の体制に早急にして頂いて、とても安心出来ました。高専に入学して良かったと思っています」など、好意的なコメントが多数寄せられました。

一方、全国高専の中ではトップクラスの早さで、6月8日から、対面授業を全面的に再開しました。学生が元気で授業を受けている学校の素晴らしさを改めて実感しています。7月からは、制限付きながら部活動も再開しています。

入学式直後から遠隔授業に移行したために、友達もできず、ストレスを抱えていた新1年生が心配でしたが、漸く学校生活になじんできたようです。学校再開にあたり、保健室の看護師の協力も得ながら、「感染症対策指針」を作成し、校内での除菌や感染対策などを行いながら、学校生活を行っています。

新型コロナ感染は予断を許しません。本校では、学寮の学生が多数いるために、感染に対して大きなリスクを抱えています。全国の高専が、対面授業再開を躊躇する理由が学寮です。本校も例外ではなく、感染予防に万全を期しながら、状況が悪化したら、遠隔授業に移行できるよう、準備を進めています。

これからも新型コロナウイルスとの戦いは続きます。皆で協力して、感染リスクを回避しながら、教育・研究を行うことが求められています。

春学期に実施した遠隔授業コンテンツは、約2000に及びます。これらの授業コンテンツを今後どのように活用してゆくか、現在、教員の間で検討しています。コロナ問題が高専教育を大きく変える転機になるかもしれません。

# 3 主 事 か ら

## 「学びを止めない」

教務主事  
長 谷 川 章

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、長期間にわたる遠隔授業の実施や年間行事予定の大幅な変更など、学生をはじめ保護者の皆様には、多大なご協力をいただきましたことに対して心より御礼申し上げます。

さて、今後の行事予定ですが例年に比べて大幅な変更がございます。夏季休業明けの8月31日から夏学期の残りの授業を行い、9月14日から夏学期到達度試験を実施いたします。例年とは試験の時期が異なりますのでご注意ください。また、10月から開始されます秋学期では、春学期に実施できなかった実験実習や専門科目の実施が予定されており、例年に比べて秋学期期間中の授業時間数が増加しております。このような背景から、自主探究活動に充てられる時間数が昨年に比べて少なくなります。学生には夏季休業期間を利用して、自主探究活動をできるだけ進めるように指導しているところです。また、今年度の自主探究ポスター発表会は、1～3年生を対象に実施いたします。実施方法等は現在検討中ですので、決定次第お知らせいたします。

今後の状況によりましては、さらに行事予定変更の可能性もございます。私共教職員一同、学生の安全を第一に考えつつ、「学びを止めない」姿勢で指導にあたっておりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

## 学校生活における 「新しい生活様式」

学生主事  
阿 部 恵

新型コロナウイルス感染症が再び拡大する可能性が十分あることから、予防策として、学校生活における「新しい生活様式」がスタートしました。ソーシャルディスタンス、手指衛生とマスク着用、毎日の教室の消毒等、今までとは違った生活になります。慣れるまで大変だと思いますが、「自分の身は自分で守る」という意識をもって、こまめに消毒をしましょう。

コロナ予防対策の生活、遠隔授業、久しぶりの

対面授業等でストレスや不安を抱える学生は少ないと思います。これは、特別なことではなく、自然なことです。自分の弱さのせいだと自らを責めたりせず、ぜひ気軽に、保健室や相談室に立ち寄ってください。話を聞いてもらうことで気持ちがすっきりしたり、ストレスが軽減されたり、リラックス効果があるといわれています。不安やストレスと上手に付き合う方法について専門家からアドバイスを受けることができます。

皆さんが健康で安心した学生生活を送ることができるよう、学校全体で学生の皆さんを支援していきます。学生の皆さんも自分自身を守るために、意識と行動を変えて、感染予防策を「新しい生活様式」として、日常生活及び学校生活の中に定着させていきたいと思います。

## 「コロナに打ち勝つ寮生活」

寮務主事  
松 本 克 才

今年度から寮務主事を務めることになりました。よろしくお願いたします。

今年度の始まりにあたり、コロナウイルスの影響で北辰寮もかなりの影響を受けることになりました。寮は学生の生活の場所ということで、安全を最優先に考えなければなりません。したがって、これまでの寮とは異なる厳しい規則を強いることになり、不自由な思いをさせていただきますが、ご理解・ご協力をいただければ幸いです。

さて北辰寮では現在、約320名の学生が生活を共にしています。上述のコロナ対策を始め、さまざまな規則や施設面でも決して恵まれてはいませんが、その中で如何に過ごすか、すべては皆さんにかかっています。個人のわがままが通るところではありません。場合によっては厳しい罰則を科さなければならないこともあります。周りへの配慮ができる人間力を養ってほしいと思っています。

今年度は、国際寮も改修、新築される予定です。環境も徐々にではありますが、良くなってきています。この北辰寮を皆さんの力でより良いものにして行けたら、と思っています。

今年の寮務委員の先生ですが、新人の若い先生から経験豊富な先生まで多彩な顔ぶれとなっております。何かありましたら、気軽に声をかけてください。我々寮務委員も皆さんの寮生活のお手伝いができれば幸いです。

# 新 入 生 紹 介 L1

## 新時代に向け、濃厚に生きる力を

L1担任 齋 麻子

昨年度に引き続き、留学生が所属するクラスを担当します。昨年学生たちに好評だったクラス交流会を今年もやろうと、2月初めから、着々と一人準備に入りました。私の野望だったL1クラス交流会は、学生に伝えることさえなく、企画倒れとなりました。

初めて出会うL1の学生たちとは入学式を含めわずか3日間の対面ののち、顔も個性もわからぬまま、遠隔授業に突入しました。

担任と学生をFace to FaceでつなぐのはわずかにTeamsのみ。初めて操作するテレビ会議システムがクラスの命綱でした。

再開された対面授業ですが、L1はまだメンバー全員が揃っていません。留学生がまだタイから来日できないでいます。Teamsでタイの2人の自宅とL1教室をつないでの特別活動。少しずつ、着実に留学生の存在を感じつつ、この教室で会えることを楽しみにみんなで待っています。

新しい環境、新しい生活様式など、戸惑うことが多い中でも、力強く、たくましく、濃厚に生きる力を備えてほしいと願っています。

自主探究Day2でのクラス内SPDでは、少しずつ、緊張がほぐれ、楽しいディスカッションになりました。この調子で、楽しく互いに高めあってくれることを期待しています。



L1クラス写真・自主探究Day2の後で…何人か見切れてしまっておめんなさい。



L1クラス写真・自主探究Day2の後で…コースごとに記念撮影

## 密な高専生活

マテリアル・バイオ工学コース1年

柿崎元徳

(十和田市立三本木中学校出身)

入学早々始まった遠隔授業では、相談できない不安、次から次へと出る課題の量への驚きで複雑な思いを抱いていた。そして6月8日。期待に胸

を膨らませて入ったL1学級は静寂に包まれていて少し不安だった。しかし実際はというと、遠隔授業の際の先生のモノマネをする人や、共通の趣味で盛り上がる人などと個性豊かで、温かく居心地の良いクラスだった。

春学期のテストを終え感じたことは、高専は他の高校と比べよりいっそう「努力と結果」の比例がはっきりとわかるころだということだ。高みを目指すのであれば人の何倍も努力をし、日々の積み重ねを大切にしなければならない。これから部活動が始まれば、なおさら時間の使い方を見直す必要がある。私は、部活動も全力でできるように毎回の授業に集中して取り組み、毎日の予習・復習を怠らず、資格試験に向けた勉強にも力を入れていきたい。「自由をはき違えない」をモットーとし、精一杯高専生活を謳歌したい！

## ニューノーマルの中で

環境都市・建築デザインコース1年

祐川和奏

(三沢市立第一中学校出身)

「ソーシャルディスタンス」「リモート」…今年の流行語は、新型コロナウイルス関連になりそうだ。そんな騒ぎの中徹底した対策で行われた、私たちの入学式。170人のマスクをした学生が体育館に集った。

入学してすぐに遠隔授業がスタートし、真新しい制服はハンガーに掛けられたままだった。何もかもが初めてで、不安はあったが、家という慣れた場所で授業を受けることができ、良かったと思う。

やっと始まった対面授業。約2か月間の長い遠隔授業が終了、教室の窓は全開といういろんな意味で「かいほうかん」が感じられるクラスとなっている。2か月会っていないクラスメイトと、何度自己紹介しても、マスクをした顔と名前を一致させるのは難しい。それでも、今までは見られなかった先生との掛け合い、チームワーク、バスケット好き、拍手好き…L1の雰囲気やだんだんと掴めるようになってきている。だが、喜びに浸ってばかりもいられない。この自粛期間で学力も体力も差が出ているのは事実だ。春学期の到達度試験は遠隔であったことを考慮されていたが、もう言い訳はできない。このスピードの速い、高専では厳しい自己管理、遠慮せずに質問することが大切だと考えている。いつでもどこでもだれとでもつながりを持てる今の時代を有効に活用していくことが必要だ。今しかない混合学級、留学生と共に勉強できるL1でしか味わうことのできない良さが沢山あるだろう。このL1で、コロナに負けない流行語が生まれることを願っている。

# 新 入 生 紹 介 L2

## なるべく例年通り

L2担任 川 端 良 介

新型コロナウイルスの影響で、なかなか始まらなかった対面授業もようやく開始され、楽しそうに学校生活を送っている学生の姿をみると担任としてもホッとします。八戸高専に入学していきなり遠隔授業を受講せざるを得なかった1年生も、初めて遠隔授業に取り組む教員も互いに余裕がなくすれ違いも多かったかと思いますが、対面授業になればこれらも徐々に解消されていくと思うので保護者の方々にも少しだけ安心していただければと思います。

ただ、なかなか以前通りの学校生活に戻るのは難しく、消毒、換気の徹底、寮生活におけるルールの強化、屋内での運動の禁止などは今でも続いており、私の担当科目である「保健体育」では屋外でバレーボールを行うなど、授業内容に試行錯誤が続いています。それでも学生が不安・不満が募らないようになるべく「いつも通りの学生生活」を心がけるように努力したいと考えています。

また、私が1学年の担任をするときには必ず達成したいと考える目標が3つあり、

- ①クラスの学生が全員進級する
- ②高専で5年間過ごすための下地を作る
- ③1年を通して厚生補導委員会（学生指導）のお世話にならない

をL2クラスの学生とともに達成したいと考えております。

今年度担任として学生と関わる機会をいただいたのですが、私自身まだまだ未熟であり、保護者の皆様にも色々ご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、1年間よろしく願いいたします。



L2 自主探究Day 2での様子…クラスの学生からアドバイス

## 新たなスタート

マテリアル・バイオ工学コース1年  
高 崎 美 羽  
(洋野町立種市中学校出身)

入学式を迎えた私たちは、新たな学校生活への期待が膨らむ一方、遠隔授業への不安が募っていました。しかし、たった数回しか会うことのできた友達と、LINEで繋がってコミュニケーションを図ったり、わからないことを共有、解決したりして遠隔授業を乗り越えることができました。対面授業が始まった今、L2は徐々に明るい雰囲気になりつつあります。高専では専門科目で専門的な知識や技術を学ぶことができます。また、自主探究として自分の興味がある事を探し、普通の高校ではできないことを経験できるが、未来を切り開くためにはもっと努力する必要があると思います。自由な校風だからこそ学習時の切り替えやスマートフォンの使用を自己管理できる高専生になりたいと思います。

## 夢に向かって

機械システムデザインコース1年  
佐々木 穂 南  
(十和田市立十和田東中学校出身)

中学校を卒業してから、どんな学生生活を送れるだろうかと高専に入学できることをすごく楽しみにしていました。しかし、新型コロナウイルスの影響で入学式と登校日の2日間しか学校へ行くことができず、その後すぐに遠隔授業が始まりました。先生の顔もクラスメイトの顔も全然覚えられない状態、普段とは全く違う方法で授業を受けるのはすごく不安でした。みんなと自分の差がどれくらい開いているのか、到達度試験を上手く乗り越えられるかという不安を感じながら過ごした2か月間でした。学校が再開した1週間後にはテスト期間に入り、テストが終わった今ではたくさんの人と話すことができ、毎日充実した学校生活を送れていると感じています。今後は、自分が高専に入った目的を忘れずに、苦手なことから逃げず、自分からたくさんの方にチャレンジしていきたいです。そして、将来やりがいがあると感じられる仕事に就くため、専門的な基礎技術を身に付けるのはもちろんですが、興味を持ったことはどんどん調べるなどの努力をし続けたいです。

# 新 入 生 紹 介 L3

## 新たな仲間を迎えて

L3担任 吉田雅昭

2年間の寮の仕事から解放され、久しぶりに1年生の担任になりました。期待と不安が交錯した心境にCOVID-19の影響がプラスされ、前例のない異様な緊張感に包まれた新学期となりました。例年であれば、担任は春学期を終える頃には、学生の名前と顔が完全に一致してくるものですが、今年度はマスク越しの表情のため名前と顔が一致せず苦勞しておりました。さて、この間を振り返ると入学式後のわずかな登校、慣れないスマートフォンでの遠隔授業、学校再開直後の到達度試験、夏学期授業と同時並行の答案返却など、学生の皆さんはまさに高専の洗礼を浴びることとなりました。この間、私自身は授業動画作成や授業に対する質問への回答の傍ら、皆さんのBlackboardの授業動画へのアクセスを微力ながらサポートしてきました。そのおかげで、短期間でICTスキルを向上させることができました(笑)。皆さんは、高専が普通の高校とは教育システムが大きく異なり、複数の課題を並行して進めることにさぞ驚いたことでしょうか。また、ここから得たことはどんなことでしょうか？それは、恐らく何事にも自ら進んで行動することの大切さでしょう。しかし、たった一人での努力には限度があります。L3だけでなく1学年だけでなく八戸高専全体が皆さんの仲間です。仲間の力を借りるためには、課題を発見したら、自ら声を発してコミュニケーションをとることが必要です。これは、自主探究にも通じることです。失敗を恐れず、勇気を出してどんどんコミュニケーションをとりましょう。私であれば練習相手になりますので、どんどん声がけしてください。会話の輪が広がれば、きっと安心して過ごせるクラスになるはずですよ。お互いが切磋琢磨し、共に成長するクラスの実現に向け努力していきましょう。今年度1年間どうぞよろしくお願い致します。



L3 自主探究Day2での発表の様子…先生からのアドバイス

## 3ヶ月

機械システムデザインコース1年

山田道大

(三沢市立第二中学校出身)

私は入学した頃、不安しかありませんでした。オンライン授業があまり理解できないこと、友達もうまく作れないこと、授業も音声だけのものなど慣れないことの連続。これが高専生活の始まりでした。そんな状態から2ヶ月後、本格的に通常授業が始まり、テストも受けました。対面授業では、自宅よりも集中して授業を受け、内容も理解できました。そして友達もすぐできました。私が今回の貴重な体験から得たことは「人と直接会うことの大切さ」です。教室での授業とオンライン授業の温度差は歴然でしたし、実際に人と会って会話することと文字や音声だけのときの「言葉のぬくもり」にも差があることなど、微かな違いを感じました。まだ、コロナが終息したわけではないので、これからも緊張感をもって生活しなければなりません。今は、友達がうまく作れ、授業も少しずつ理解できてきたので、少しずつ高専生活を乗り切る自信を身に付けていきたいと思います。

## 遠隔授業を終えて

環境都市・建築デザインコース1年

田口美咲

(八戸市立是川中学校出身)

八戸高専に入学し、早いもので約3ヶ月が経ちました。この間、高専初の遠隔授業が実施され、PCやタブレットを使って授業が活発に行われました。初めの頃は慣れない作業に戸惑い、授業に遅れてしまうこともありましたが、日を追う毎に操作にも慣れ、始業前にログインするなど余裕を持って授業を受けられるようになりました。そして、最近では感染症対策を実施しながら、通常の授業が再開されています。遠隔授業時は、質問するのも全てメールでのやりとりで、不自由なこともありました。通常通りの対面授業では、授業後や休み時間等に先生や友人に聞くことができ、家庭学習よりも集中できるようになったなど実感しました。これからは、これまで以上に学習に力を入れ、高専生活を楽しんで行きたいです。

# 新 入 生 紹 介 L4

## 見る前に飛んでみる

L4担任 和田 和 幸

新型コロナウイルス感染症が世界中に大きな影響を与えている事は周知の事実ですが、近い将来歴史の教科書の最後辺りに昨今の様子が新しく追記されるかもしれないですね。

入学式では「入学おめでとうございます」を通り越して、遠隔授業等のことで沢山の願いを申し上げる事ばかりだったように思います。ですが学生・保護者のみなさまのご理解・ご協力のおかげで遠隔授業を終えて無事学校が再開するようになりました。毎日クラスのみなさんと顔を合わせ、直接関わりを持つ喜びを噛みしめています。

自分自身の遠隔授業期間を振り返るとスライド・動画を作る事にかなりの時間と労力が割かれていました。私は1年生向けの数学を1科目担当していました（後は専攻科が1科目）。間違った数式・答えを動画内で書いてしまっていたときには、沢山の「激励のお便り」をもらいました。最後まで動画を見てもらい、大変ありがたかったです。

最近（7/1時点）クラスの一人一人の顔と名前がようやく分かるようになってきました。放課後の時間、当番の学生と一緒に掃除をやりながらクラスの様子を見てみると、和気あいあいとした雰囲気になっており、学生それぞれ、それなりに学校生活を送れているのかなあと感じています。L4は個性豊かなメンバーが集まっていて、私自身も毎日がとても楽しいです。

みなさんには学生の身分でいられる5年間を、“有意義に過ごし〜”というよりは“全力”で過ごして行って欲しいと思います。“毎日が完全燃焼”と言ってもよいかもしれません。時にはあまり気が進まない事をやらないといけない場面もあるでしょう。ですが取り掛かってみると案外大したことはありません。精度はどうであれ、まずは動いてみましょう（と、自分自身にも言い聞かせます）。色々皆さんのお手伝いが出来ればと思います。1年間よろしく願いいたします。



L4 自主探究Day2での様子…ファシリテーター学生によるアドバイス

## 備え

環境都市・建築デザインコース1年  
大石 凌 空  
(佐井村立佐井中学校出身)

今年の入学式は異例な形で行われました。現在社会をおびやかしているコロナウイルスにより、式が小規模化されたのです。そして授業自体も、高専のキャンパスで行われることはありませんでした。遠隔授業というものが初めてだった僕は、複雑な気持ちで授業に臨みました。授業ビデオの視聴や答案の送信、慣れない作業に覚束ない手つきでなんとか授業を受けていました。そんな僕が遠隔授業中に絶対に守ろうと決めていたことがあります。それは、万全の状態でも画面の前にスタンバイしておくことです。家には沢山の誘惑が存在します。学校のように勉強に特化した環境とはいえません。だからこそ、早起きして毎日必ず8時50分前にはスタンバイをする、頭を学校モードに切り替えることを意識して過ごしました。対面授業が再開してからも、これはとても大事なことです。できるだけ周到に準備をし、集中できる環境を自らつくる、このことを胸に留めてこれからも頑張っていきたいと思っています。

## 一か月遅れの教室

環境都市・建築デザインコース1年  
長 嶺 果 歩  
(六戸町立六戸中学校出身)

私たち、令和2年度の入学生は、今までにない新入生だ。心待ちにしていた入学式は短縮、入寮の日も遠くなり、不安が募る毎日だった。何より遠隔授業での専門科目は苦勞した。学校再開の日は今でも鮮明に覚えている。不安の中で行われた入学式とは違い、私は気楽に、元気に教室に入ることができた。それは、私がSNSを利用して、事前に友達の輪を広げることができたからだ。それまでSNSにマイナスなイメージしか持っていなかったが、この経験は私の考え方から人生までを変えてくれただろう。四月の登校日の時点では地獄のようだった昼食も、今ではみる影もなく、クラス全員が仲良くなれた。コロナウイルスで多くのものが変わってしまい、本当に残念だが、今回のことが無かったら、今の新しい自分にはなれなかった。不思議な気持ちだが、おかげで新しい自分になれてよかったと思っている自分がいる。

# 1 学年主任から

未曾有の未曾有—明日はきっと いい天気 青き春も またそうであれ (by GReeeeN)—

第1学年主任 齋 麻子

誰しものがこんな始まりを予見したでしょうか。平和な日常に、ひたひたと忍び寄り、私たちを震撼させた。平和な日常が一転。疑心暗鬼の中、突如奪われたあの日常への憧憬と追慕の念を強く抱き、それでも私たちは新たな一歩を踏み出すべく、「新しい生活様式」「ニューノーマル」という合言葉を旗印に動き始めている。

…ちょっぴり文学的に現状を表現してみました。

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。今年のスタートは、以前と全く異なる様相を呈し、1学年担任を幾度となく務めた私自身も、これまでの経験が何一つ通用しない未曾有の入学式となりました。

4/5の入学式、異例の長時間ガイダンスの1日からのスタート。数日置いてたった2日間の授業ガイダンス&実力試験。そして、約2か月に及ぶ遠隔授業。自己紹介を何度しても、コミュニティを築く場を設けられず、他学年とは違う、「友達ほぼゼロ」からの遠隔授業スタート。そんな学生がどれほどいたことでしょうか。当人でなければ計り知れない不安だったであろうと想像します。

6/8に再集結した学生たちの顔には、不安と安堵が入り混じっていました。マスクに隠れて表情がわからないながらも、ようやく対面できた喜びを、分かち合えたように感じました。

学生も、教職員も、世界中の人々が未曾有のこの現状。手探りでも何かしら前に進むことが大切かと思います。思えば、この新1年生は、9年前の未曾有の東日本大震災の時、小学校に入学し、不安な小学生生活をスタートさせてきました。あの時を乗り越え、今、ここにいます。今回もまた乗り越える力があると信じています。

GReeeeNの『星影のエール』に、「星の見える日々を超えるたびに 互いに照らすその意味を知るのでしょ う 愛する人よ 親愛なる友よ 遠くまで響くはエール」とあります。不安なこの状況だからこそ、この学校で、互いを照らしあう親友(トモ)を見つけ、白紙の物語に新たな物語を描くことを願っています。その物語を描くお手伝い、微力ながらさせていただきます。(GReeeeNの『星影のエール』ぜひじっくり聴いてください)



## 遠隔授業参観日を終えて

教務主事補 森 大 祐

新型コロナウイルス感染症対策のため、4月20日から6月5日まで(専攻科は5月29日まで)遠隔授業を実施しました。このため、当初の4月29日の対面授業参観は中止となり、遠隔授業参観として自宅での授業をご覧いただく機会と致しました。参観を終えてのアンケートに149名の保護者の皆様にご回答いただき、ご協力に厚くお礼申し上げます。アンケートでは、学びの継続への安心とともに、友達や教職員とのつながりや規則正しい生活の維持への不安があるとの感想もありました。遠隔授業の特性から来るメリットも感じられたようですが、登校が再開され友達や教職員と現実接する本来の姿を待ち望まれていることを改めて感じました。授業コンテンツ等に対するご意見もいただきました。遠隔授業だけでなく通常の対面授業にも通じ、今後の状況によっては遠隔授業の対応を再開せざるをえないことを認識し引き続き万全の準備を進めて参る本校にとって貴重なご意見でした。全教職員で情報を共有し、授業改善に役立ててまいります。秋学期の10月12日(月)から16日(金)※にかけても、保護者の皆様にご参加いただけるオープン授業週間を設定しております。是非お越しいただき、学生の姿や授業の様子をご覧いただくとともに、本校の教育への忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

(※新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて日程は変更になる可能性があります。)

# 専攻科新入生紹介

## 専攻科に入学して

機械システムデザインコース1年  
石川 貴大

4月から専攻科に入学し、八戸高専生として6年目になりました。入学に伴い、一人暮らしを始め、今般のコロナウイルスの影響による遠隔授業の実施など、この数か月で生活環境が大きく変化しました。

現在は、レポートや課題、研究に追われる日々を過ごしています。授業の内容も本科より上がり、予習や復習の必要性を感じます。また、私が生活の中で感じたことは、時間の有効活用です。8時限目まで授業が入っているため、放課後や帰宅後の空き時間をどう過ごすかがとても重要になると思います。「この時間はこの課題をするから、今は研究をしよう」など、計画的に進め、時間を有効活用することを意識して生活することを心掛けています。

2年間という短い中で、日々目標を持ち、時間を大事に使い、様々な経験を積み、今後活かせる専攻科生活を送っていききたいです。

## これからの指針

マテリアル・バイオ工学コース1年  
京谷 悠里

専攻科生活は、本科で学んだ内容を応用しながら専門科目を深めることに加え、他学科の内容にも触れることで技術者としての視野の広さを得たり、学会発表など活動の場を広げることで新たな視点からの研究に対するアプローチ方法を見つけたりと、自分ないものを獲得するよい期間であると思っています。同時に、本科在学中ではなかなか無かった自由な活動時間が増える為、次のステップへ向けた勉学にもより一層没頭し、研鑽を積んでいきたいと考えています。

遠隔授業という怒涛のスタートで始まった専攻科生活ですが、自粛期間を終えた今、自由に勉学・研究に打ち込める環境がいかに恵まれているかということに改めて実感しました。本来できるはずであった活動が次々と中止になっている中で、今何をすることが自分にとっての最良であるかを熟慮し、2年間で自分をより豊かにする努力をしていきたいと思っています。

## コロナニモマケズ

電気情報システム工学コース1年  
山一 竜光

今年度は新型コロナウイルスの影響により、2か月間の遠隔授業となりました。登下校や移動教室などが無いのは楽でしたが、学生や教授たちと直接コミュニケーションが取れなかったり、課題の管理が困難だったり、不便な部分もありました。6月に入ると学校が再開し、普段の授業・課題に実験・レポートが加わり、忙しい日々が続きました。しかし、教室で授業をすることの良さを改めて感じる事ができました。

海外研修が中止になったり、インターンの開催が危ぶまれたり、入試制度が変更したりと、進路の準備が困難な状態です。そんな状況下でも、TOEIC等の資格試験や受験に向けた勉強はできるので、少しずつ始めていこうと思います。

慌ただしいスタートを切った専攻科生活ですが、明るい将来に向かって、短い2年間に有意義に過ごしたいです。

## 専攻科に入学して

環境都市・建築デザインコース1年  
工藤 拓也

専攻科に入学して早3か月が経ちました。今年度は、コロナウイルスの影響からこれまでの生活とは全く違うものとなってしまいました。4月から2か月間行われた遠隔授業では、先生方のお力添えにより、急な授業形態の変更による影響を感じずに、質の高い授業を受けることができました。また、家庭での学習であったため、今まで以上に予習、復習が必要となり、自ら学習に取り組む自主性の重要性を痛感しました。

現在は、教室での授業が始まり、また、遠隔授業では行えなかった実験、実習などにより多忙な日々を過ごしています。専攻科は、2年というとても短い期間です。これまで以上に有意義な時間を過ごすために、明確な目標を持ち1日1日を大切に過ごしていきたいと思っています。

# 今年の編入生・留学生紹介

## 「高専に編入して」

環境都市・建築デザインコース 4年  
平川 巧 都  
(弘前工業高等学校出身)

高専に編入学してから2ヶ月が経ちました。今年度は新型コロナウイルスの影響で6月初頭まで対面での授業がなくなり、オンラインでの遠隔授業となりました。遠隔授業だと授業の内容を理解できるかかなり不安でしたが、始業式の日に友好的に話しかけてくれたクラスメイトが連絡先を交換してくれたおかげで、色々わからないことを教えてもらうことができて助かりました。

高専は、工業高校と比べると課題が多く、授業のスピードも速くて、毎日、とても大変で、授業動画や資料を何度か見直したりして、なんとか授業についていくことができました。これからも授業で難しい内容に取り組むことがあると思うので、日々の努力を怠らず、自分の将来を見据えて精進していきます。

これからよろしくお願いします。

## 「高専での生活」

機械システムデザインコース 4年  
若澤 聖 弥  
(十和田工業高等学校出身)

私は高専での生活を実質2週間ほどしか過ごしていません。今年度は新型コロナウイルスの感染対策のため、春学期の授業はほとんど自宅での遠隔授業となりました。

入寮してまず驚いたことは新型コロナウイルスの感染対策が徹底していることです。ブラックボードを利用した朝夕の検温や食事や入浴時間をずらし、食堂の席同士の間をあける等の対策にはとても感心しました。遠隔授業中も授業形式や出席確認の方法等とても充実していて驚きました。

高専の学生はとても暖かい人が多く、寮の同室の人は優しく学校の生活について教えてくれて、クラスの仲間は勉強で分からない所を分かりやすく教えてくれます。高専の授業はとてもレベルが高く、周りの人のレベルに追いつくまで人一倍努力しなければいけません。これからも周りの学生と先生方に支えてもらいながら、高い目標を目指して日々勉強に励みたいと思います。

M4の皆さん、お世話になる先生方、寮生活を一緒に送る皆さん、これからどうぞよろしくお願いします。

## 「八戸に来て」

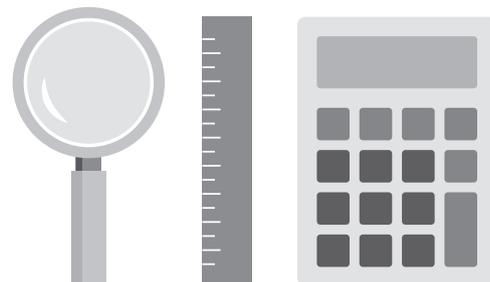
電気情報工学コース 3年  
プレブダガバ エムン  
(モンゴル)

八戸に来てから2ヶ月がたちました。新型コロナウイルスの影響もあり、この2ヶ月はいろんなことを体験しました。

東京から来てすぐに、一人別の寮棟で2週間過ごしました。そのあと国際寮に移り、他の留学生達と知り合い、5月からは遠隔授業を初めて受けました。色々、想定外なことはありましたが、なかなか面白い2ヶ月でした。

6月から通常の授業がはじまりました。クラスの人達は皆熱心で、先生方も優しく、授業が面白いです。来たばかりのころも、寮や学校の人達にとっても良くしていただきました。なので自分はとてもいい環境に来たと思っています。

これからここで多くを学び、経験し、有意義な3年間を過ごせるよう努力します。どうぞよろしくお願いします。



# 新任教職員紹介

- ①氏名
- ②出身地
- ③所属・職名
- ④前職

- ① 中村 雅徳
- ② 岩手県二戸市
- ③ 総合科学教育科・准教授
- ④ 中央研究院天文及天文物理研究所

今年度4月に総合科学教育科に着任いたしました。専門は高エネルギー天体物理学で、宇宙ジェットと呼ばれる、活動銀河中心核の超大質量ブラックホール近傍で生まれるプラズマ噴流の解明です。イベントホライズン望遠鏡プロジェクトでM87ジェットの研究に取り組んでいます。郷里二戸を後にし、学位取得後に米国NASA/JPL、LANL、JHUそして台湾ASIAAに在籍し、数十年ぶりに馴染みのある所に戻ってまいりました。本校では、理工学系学生の英語教育に携わっております。これまでの失敗や経験を活かし、これから社会に羽ばたいていく北東北の若い世代をサポートしていければと考えております。また、長年の海外研究活動で得た知見や国内外の大学(院)生との研究交流を基に、学生さんの探究心を大きく育む教育活動を展開していきたいです。どうぞよろしく願いいたします。

- ① 長谷川 耕平
- ② 三重県鈴鹿市
- ③ 総合科学教育科・准教授
- ④ 神戸大学大学院理学研究科

某輸送機器メーカーの工場とサーキットのある三重県の鈴鹿で生まれ育ちました。専門は素粒子物理学の理論的研究です。現在において発見されている素粒子であるニュートリノ、クォーク、ヒッグスなどを研究しております。5年ほど前にインドのガンジス川のほとりにある研究所から帰国しました。それから神戸大学にて研究を続けながら高校と大学で物理を教えてきました。物理学でも分野の細分化が進み現在では実験と理論に大きく分かれています。個人としてはできる範囲で実験にも触れていきたいと思うようになりました。技術者の育成を目標とし素晴らしい伝統のある本校にて働かさせて頂けることをとても感謝しております。学生の皆さんが専門技術・知識を身に付けるにあたり微力ながら寄与できれば幸いです。

- ① 佐伯 彩
- ② 大阪府
- ③ 総合科学教育科・助教
- ④ 奈良女子大学大学院人間文化研究科博士研究員

今年度4月に総合科学教育科助教として着任しました。専門は、近代中東欧史、ハプスブルク史研究で、主にガリツィア(現在のポーランド南東部からウクライナ西部の地域に相当)とその地域で政治的優位性を誇っていたポーランド人議員が、当時属していたハプスブルク帝国においてどのように「自治」を主張していったのか、について研究しています。これまで奈良女子大学で博士研究員として研究を進めつつ、近畿大学附属高等学校などで教鞭をとってきました。私は、高専は、理系研究や技術に関する研鑽を積む場所であると認識しています。そのため、そうした環境で、どれだけ歴史の勉強に興味を抱いてもらえるのか、期待と不安が入り混じっています。本校の学生に、歴史に興味を持ってもらえるようにいろいろと試行錯誤していこうと思います。どうぞよろしく願いいたします。

- ① 李 善太 (イー ソンテ)
- ② 韓国 ソウル
- ③ 環境都市・建築デザインコース・助教
- ④ 国立研究開発法人  
土木研究所 先端材料資源研究センター

令和2年度4月1日付に環境都市・建築デザインコースの助教に着任いたしました。2010年4月に京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻の修士課程として来日して以来、日本での生活は11年目となります。実は、私と同様に父も日本で留学しており、4歳から12歳まで名古屋で暮らしていたので、この期間を合計すると18年となり、ちょうど人生の半分日本に居たことになりました。

専門は水環境工学で、下水の再利用や、水中の健康関連微生物に関する研究に取り組んできました。八戸高専での教育・研究においては、これまでの経験や知識を活かし、水環境分野・環境工学分野への関心を高めていくと同時に、地域環境の保全・改善に貢献したいと考えております。まだ慣れていない部分が多くありますが、学生の皆さんと共に頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

- ① 田口 恭 輔
- ② 青森県八戸市
- ③ 機械システムデザインコース・助教
- ④ 一関高専 技術室

今年度の4月から機械システムデザインコースに着任しました、田口恭輔と申します。私はこの卒業生で電気棟1階に飾ってあるロボットを作った1人です。これまでRから始まる某印刷機会社で部品の開発から量産までの業務に従事し、前職の一関高専では技術職員として高専の技術教育に携わり、この度は八戸高専に教員として戻って参りました。

ロボットを作っていたこともあり、ものづくりが好きで「ものづくり技術（加工学）」を専門としております。この学校は普通の学校では触ることのできないものづくりの“キカイ”に溢れています。そのため、みなさんともものづくりを通じてふれあっていければと思います。

まだまだ、新しい環境に不慣れで未熟ではありますが、今後ともよろしく願いいたします。

- ① 玉田 邦 彦
- ② 青森県八戸市
- ③ 学生課長
- ④ 山形大学総務部総務課長

4月1日付けで、学生課長を拝命しました玉田と申します。文科省で十数年勤務した後、東京、石川、高知、青森、北海道、山形を数年で転々とする生活を経て、このたび八戸高専にお世話になることになりました。八戸生まれの八戸育ちです。高校卒業後、約30年ぶりに故郷で暮らすことになり感慨深いです。

これまでは主に大学等で総務や企画・評価などの業務を担当してきました。高専での勤務は初めての経験となりますが、過去に高専担当の部署に就いていたことがあり、それ以来、高専の応援団として密かに関心を寄せていました。新たな環境にまだ少し戸惑いはありますが、学校の発展と学生の将来のために少しでも貢献できるよう『明るく・楽しく・前向きに』を心掛けて頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

- ① 葛 西 巧
- ② 青森県青森市
- ③ 総務課付一般職員
- ④ 新卒採用

4月1日付で採用になりました、葛西巧です。生まれた時から大学の卒業まで、地元青森市で暮らしており、初めて八戸という町で親元を離れ生活を始めることとなりました。新卒社会人一年目、見える海は太平洋と慣れ親しんだ景色と違う一方、八甲田山は変わらず身近に感じているところです。

大学では経営経済学を学び、モノ、コトの価値について修学して参りました。この視座を生かし、八戸高専の魅力に貢献すべく尽力したく思います。

社会人として、そして高専職員としての在り方や視点といったものを、職務を通して学び、一日も早く高専に微力ながら貢献しているよう精進いたしますので、皆様ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

- ① 飯 塚 洋 行
- ② 福島県
- ③ 教育研究支援センター・技術職員
- ④ 山形大学大学院 理工学研究科

今年度4月に教育研究支援センター・技術職員として着任いたしました、飯塚洋行と申します。学生時代（大学・大学院）は燃焼工学、反応性熱流体工学、安全工学を専攻し、火災安全に関する研究を行ってきました。

大学はもとより高専での勤務は初めてであり不慣れなことが多く、特に、実習・実験等の教育・指導に関する経験は浅いので、まだまだ至らない点多々あります。ですので、一日でも早くお役に立てるよう、上司の技術職員の皆様に支えられながら、業務に携わりつつ努力している日々を過ごしております。

学生や教職員の皆様のご要望に沿える技術提供ができるよう業務に精一杯励んで参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

# 北辰寮より

## 「北辰寮 総代より」

環境都市・建築デザインコース5年  
鳳 至 英 真  
(つがる市立柏中学校出身)

遠隔授業が終了してから約2か月経ちました。北辰寮では新型コロナウイルス感染症対策として、点呼の代わりに検温を実施し、食堂で並ぶときには距離をとる、換気をするなど3密を避けるよう徹底しています。いつもと違う日常に最初は不安があったと思いますが、今はだいぶ慣れて来ているように思えます。ただその慣れが、感染への警戒を解くことになってしまわないようにより一層注意を払っていきたいと思います。

そんな中迎えた到達度試験も無事終えることができました。遠隔授業だった分これまでよりも難しい試験になったことでしょうか。補充試験や再試験がある人はしっかり勉強し、確実に単位を取得しましょう。

高専大会は中止になり、高専祭も規模縮小という形になりました。今まで高専大会を目標に部活に取り組んできた学生には残念な結果となりましたが、新しい目標を見つけ頑張りましょう。部活動も様々な制限があるものの活動再開に踏み切ることができたので、密を避け、除菌を徹底し、この騒動が収束するまで一丸となって耐えていきましょう。

## 北辰寮 指導寮生代表より

マテリアル・バイオ工学コース5年  
蛭 名 優 花  
(三沢市立堀口中学校出身)

今年は新型コロナウイルスの影響もあり例年より大幅に遅れて新学期が始まりました。登校再開からすぐに到達度試験があり、1年生はもちろん、2年生以上も大変だったかと思います。

私は今年で寮生活5年目を迎えますが、やはり寮生活において最も大事なことは集団行動を意識できるかどうかだと思います。不慣れなうちは大変かと思いますが、寮で培った経験は社会に出ても役立つうえ就職や進学でも有利に働くことが多いです。もし困ったことがあれば寮務委員の先生や身近にいる先輩に相談してみましようね。

例年とは異なった動き、時間に戸惑うことが多

い日が続くかと思います。しかしこんな状況だからこそ寮生全員が力を合わせ、より良い寮生活を過ごせるように頑張りましょう。

## 「北辰寮における 新型コロナウイルス感染症対策について」

寮務主事補 井 関 祐 也

北辰寮は7月現在314名の学生が在籍しており、十分に広い生活空間とは言い難い環境です。寮生の健康と安全を守るために、6月6日の寮再開以降、以下の安全対策を実施しています。

### (1) 毎朝・毎晩の検温報告

従来の集合型点呼を休止し、ウェブ上で体温を報告させる非対面型点呼を導入しました。

### (2) 学寮内でのマスク着用の徹底

学寮内や居室内ではできる限りマスクを着用し、咳エチケットの実践を行っています。

### (3) 食事・入浴時間の分散

食事・入浴時の密集を避けるため、食事は2グループ、入浴は4グループに別け、時間交代制を導入しています。また、フロア集会などの集会の分散開催も導入しています。

### (4) 他室訪問の原則禁止

密集、密接を避けるため、他室訪問を原則禁止しています。

### (5) 寮祭等各種イベントの中止・延期

安全上の観点から本年度の寮祭は中止となりました。多くの寮生が楽しみにしていたメインイベントだけに大変残念ですが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

寮生の皆様には大変不自由な生活を強いておりますが、新型コロナウイルスへの感染とその拡大防止のため、引き続きご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



# 相談室から

相談室長 矢口 淳一

新型コロナウイルスの感染がなかなか終息せず、もう半年間も不安やストレスを抱えた生活が続いていると思います。体調や将来について心配になったり、イライラしてくることもあると思います。このような状況において、悲しんだり、心配したり、困惑したり、恐ろしさや怒りを感じることは自然なことです。自分の弱さのせいだと自らを責めたり、早く回復しなければと焦ったりする必要はありません。相談室では、心身の変調や悩みのある学生に対して、カウンセラー等による支援を行っています。精神科医も下記のように定期的に来校していますので、保護者の皆様も**お気軽にご相談ください**。

相談室は夏休み中も通常通り開室しています。相談がある場合は、まず電話かメールで相談員か保健室にお問い合わせください。カウンセリングを希望する場合は、日時を予約いただいたの対応になります。下記に示した本校ホームページにカウンセラー等の来校日が掲載されていますので、ご確認ください。

相談は原則として「**対面相談**」で行います。しかし場合によっては、**遠隔相談**など対面以外の方法（電話、テレビ通話等）も可能ですので、ご相談ください。

また昨年度から社会福祉士の資格をもつ**スクールソーシャルワーカー（SSW）**が週3回来校しています。家庭や学外でトラブルが生じた場合などに是非ご相談ください。

いずれの場合も**秘密は守られます**。

相談室の担当は次の通りです。

## ◎ カウンセラーと主な担当曜日

笹 博（医師・ささクリニック院長）

第4水曜日 担当

中西 智子（臨床心理士）

第3・5水曜日 担当

坂本 玲子

（産業カウンセラー・スクールカウンセラー）

第1・3木曜日 担当

石川 善子（臨床心理士）

第2・4木曜日 担当

土屋 文彦（臨床心理士）

第1金曜日・第2火曜日 担当

## ◎ スクールソーシャルワーカー

正部家 千穂子

毎週月・火・金曜日（15：00～18：00）

詳しくは、窓口にお問い合わせください。

校内に「カウンセラー来校日のお知らせ」ポスターや、各教室内に「相談室からのお知らせ」も掲示しています。

◎ **インターカー（窓口）** TEL 0178-27-7236

石川 久美子（看護師、保健室）

吉田 左千枝（看護師、保健室）

## ◎ 相談員

各コースの教員を配置し、保健室の談話スペースに日替わりで詰めています。夏学期の懇話室担当日は次の通りです（授業日の16：00～17：00）。

月曜日：川端 良介 電話 0178-27-7251  
（総合科学教育科）

火曜日：黒沢 忠輝 電話 0178-27-7272  
（機械システムデザインコース）

水曜日：川口 恵未 電話 0178-27-7434  
（マテリアル・バイオ工学コース）

木曜日：中ノ 勇人 電話 0178-27-7288  
（副室長、電気情報工学コース）

金曜日：矢口 淳一 電話 0178-27-7305  
（室長、環境都市・建築デザインコース）

## ◎ 教職員向け相談員

専攻科棟3階の専攻科講義室で下記に示した時間に詰めています。主に教職員のためですが、**学生でも相談できます**。

（夏学期担当曜日）

月曜日15：00～17：00

中村 重人 相談員（名誉教授）

火曜日13：15～15：15

石川 正子 相談員（名誉教授）

木曜日15：00～17：00

赤垣 友治 相談員（名誉教授）

## 八戸高専 相談室ホームページ

<http://www.hachinohe-ct.ac.jp/schoollife/soudan/index.php>

☆ 学生本人と保護者の方々が利用になれる高専機構の「KOSEN健康相談室」フリーダイヤル0800-000-2228もあります。  
（受付時間：24時間365日）

# 「令和2年度 真のグローバル化を考えさせられる年」



国際交流センター長 横田実世

今年度から国際交流センター長に任命され、学生の皆さんの国際意識・交流をより高めるためグローバル教育のサポートに向け準備を進めていた矢先、新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大は出鼻をくじかれるような想定外の出来事でした。しかし世界中がパンデミックに陥っている中も世の中は様々な形で動いています。

4月半ばに日本全国に出された緊急事態宣言で「不要不急」の生活を要請され、皆さんはどのように感じ、生活していたでしょうか。私は海外の友人との会話の中で日本の緊急事態宣言は海外と比べてまだ「自由」があることを学びました。イギリスの緊急事態宣言（ロックダウン）時には1日に1回、1時間しか外出できなかったそうです。天気がいい日に近くの芝生で寝そべて眠りこけていると、どこからともなく警察が現れ、質問されたと言っていました。また、イスラエルではもっと制限された生活を強いられ、自宅から100m以上外には出られない状況だったそうです。さらにアメリカの州によってはロックダウンでの自粛を守らない市民に対して罰金を課しているところもありました。このように国際交流を通して日本の外に目を向け、グローバル社会の1市民になるということは、様々な意味で自分の立ち位置が投影され、考えさせられ、成長できる機会だと思います。

今年度は新しい形での国際交流・グローバル化が求められています。今までのような海外派遣・受入、またそれに伴う奨学金募集も全て中止・延

期となっています。しかし校長先生が遠隔ビデオ講話でもお話したとおり、このような状況の中でもピンチをチャンスに変える姿勢が重要です。「先の見えない状況」の中、どのような姿勢で臨むかによって、のちにビジネス・教育などはじめとする様々な分野で差が出てくると考えています。八戸高専では現状少しでも前向きにグローバル教育・エンジニア育成ができるよう以下のような取り組みを始めました。

## 1. オンラインによる国際自主探究：

海外の提携校（シンガポール・モンゴル・タイ）と協力して、特にSDGsを意識した海外共同自主探究を遠隔で進められるよう準備を進めています。

**2. タイ「チュラポーン王女サイエンスハイスクール」からの新入生サポート：**4月から新入生として本校で学ぶ2名のタイ人留学生はCOVID-19における渡航制限のためまだ来日できていません。そこで本校に来るまでの間遅れを取らないよう遠隔授業を実施し、日本語、基礎科目および専門科目もサポートしています。タイ人留学生は八戸高専の日本人学生に会える日を楽しみにしています。

## 3. グローバルラーニングセンター（GLC）：

グローバルエンジニア育成事業の一環として立ち上げたGLCでは資格試験などもっと英語力を伸ばしたい人だけでなく、英語を不得意とする学生の個別指導を行っています。未来のグローバルエンジニアとなるみなさんのサポートを行っています。

## 男女共同参画委員会から

SciTech Girls (サイテック・ガールズ)  
をよろしく！

男女共同参画委員長  
戸田山 みどり

今年も54名の女子学生を新たに迎えることができました。入学者168名に占める割合は32.1%で、これは工学系のみで国立高専の中では最も高い値と言えます。でも、残念ながら女子学生が入学したコースには偏りがあります。増加傾向にあるとは言え、まだ機械システムデザインコースと電気情報工学コースの女子学生をあわせても、他のコース1クラスの女子の数に届かないのです。

もっと多くの後輩に来てもらいたい、ということで、機械コースと電気情報コースの女子学生を中心に結成されているのが「ろぼっと娘」という団体です。小学校でのプログラミング教育必修化を受けて、ミニロボットを利用したプログラミング教材を開発し、八戸市内の小学校や中学校で出前授業を実施してきました。昨年度は八戸市学生まちづくり助成金に採択され、2月に開催された学生&高校生まちづくりコンペティションの発表会では特別賞を受賞しました。

今年度は、これまでの活動の実績が評価され、国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) の次世代人材育成事業の1つである「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の事業として採択されました。タイトルは、おもいきり青森県を主張して、「はばたけSciTech Girls(サイテック・ガールズ)-北東北産業都市八戸発！青森リケジョの人材交流型育成-」です。これから2年間、全国のほかの11の機関(大学・高専など)とともに、まだまだ届けきれしていない工学、とくに最新の機械工学や電気・情報系の分野の魅力を、女子生徒のみなさんに伝えていけるよう、企画を用意しています。

今年は、新たに女性の先生も増え、女子学生支援の強い味方ができました。これからも、本校の女子学生の活躍をご注目ください。

## キャリア教育・支援センターから

ラーニング・サポート・センター開設

戸田山 みどり

キャリア教育・支援センターは、卒業後のキャリア形成に向けたさまざまな教育・支援を行っています。そのひとつが、そもそも卒業に必要な、各学年における単位取得、つまり学習の支援です。これまでに学習支援として行ってきたのは、おもに高学年・専攻科生による学習個人指導である学習メンター制度の運営でした。今年度は、それに加えて、学生のティーチング・アシスタント(TAと略称)による基礎学習セミナーが加わりました。

メンター制度では、成績に不安のある1-3年の学生が自分から希望して、個人的に学習の指導をしてもらうメンターを依頼します。メンターは本校の教員の推薦によって任命され、低学年の学生とのマッチングも教員が行いますが、謝礼の半額は指導を受ける学生(メンティと呼ぶ)が負担し、残りの半額は後援会から援助を受けています。いっぽう、基礎学習セミナーは、定期試験などの成績により教員が必要と判断した学生が対象です。メンターと同様にTAも教員の推薦によりますが、こちらは教員が準備した内容を指導する補習教室です。セミナーへの参加はどちらかと言えば強制なので、TAの謝金は学校が負担します。すでに1年生の数学のセミナーが開始しています。

また、キャリア教育・支援センターのもうひとつ大きな目的が、進学希望者への支援です。今年度からは進学者向け数学の指導を非常勤講師の先生(定年で退職された鳴海哲雄先生)に依頼して、受験生の個別指導と3-4年生の補習(発展セミナー)を実施しています。これまでも常勤の教員が補習や個別指導に当たっていましたが、授業とは別に放課後の対応をお願いすることで、さらに手厚いサポートができることになりました。

大学編入学試験に際して、小論文の提出が求められることがあります。また、就職試験の際、長文のエントリー・シートや志望理由書が必要になる場合もあります。このような作文の指導に関しても、昨年度末から非常勤の海野先生に、授業の他に個人指導の補習をお願いしています。

以上のような活動をまとめて、ラーニング・サポート・センターの業務としています。みなさんに活用していただけるようつとめてまいります。



# 図書館の今年度の予定



図書館長：工 藤 憲 昌

今年度の図書館の活動については次の事を計画しています。

## <読書習慣を身につけるための各種行事の充実>

- ・ブックハンティング
- ・ビブリオバトル
- ・ニューズレターの発行
- ・学生会図書委員会の活動支援

## <学外行事への参加>

- ・青森県高等教育機関図書館協議会（紙上会議）

## <令和2年度図書館委員会行動計画>

- ・交流室の積極的な活用の推進
- ・読書習慣を身につけさせるための各種行事の充実
- ・蔵書点検の実施
- ・資格試験コーナーの充実



## <その他>

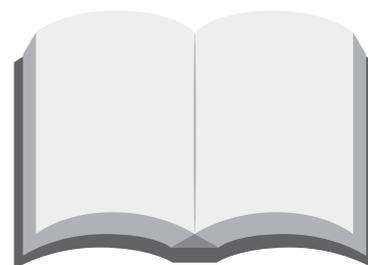
### 八戸ブックセンターとの連携「ひと棚選書」

本のまち八戸推進の拠点施設「八戸ブックセンター（H28秋に開設）」内に「ひと棚」を設置し、来館者の「本との出会い」創出の試みとして、市内の高等教育機関の教員が推薦する書籍が、3ヶ月間交代で常設ブースに陳列されます。

本年度も本高専教員の皆様から図書を紹介して頂く予定です。

### 寄贈図書の受け入れについて

本高専教職員等4名から図書の寄贈の申し込みがあり、受け入れさせていただきました。ありがとうございました。



# 就職・進学状況について

就職担当幹事

産業システム工学科長

村山和裕

## 1. 現在の進路状況

今年度の本科5年生および専攻科2年生の5月25日現在の進路状況を表1及び表2に示します。求人社数は、昨年度同時期に比べるとやや減っておりますが、これは新型コロナウイルス感染拡大の影響と思われる。採用を手控えた会社もあるのかもしれませんが、主たる理由は、採用試験実施の見通しが立たなくなっており、求人票の送付を保留していたことにあるのではないかと推察しております。

以上のように求人数は多少減ったものの、求人倍率はどのコースも非常に高く、高専生に対する企業からの期待の大きさが伺えます。現在、本科全体の就職希望者の割合は54%、進学希望者は46%です。昨年度は進学希望者が38%でしたので、若干増えています。また、専攻科全体の就職・進学希望者の割合は、就職が42%、進学が58%です。昨年度は大学院進学希望者が31%でしたので、倍近くまで増えていることとなります。

## 2. 今年度の就職活動

昨年度までは、日本経済団体連合会（経団連）の「採用選考に関する指針」で、企業の広報活動は3月1日以降、選考活動は6月1日以降、正式な内定日は10月1日以降と定められておりました。しかし、今年度から「指針」は策定されなくなって、かわりに政府が、前述した日程を踏襲するように企業に要請しております。ただし、こうした日程よりもかなり前倒しでの選考が行われてきたのが実態で、今年度も3月中から選考を始める企業もありました。ところが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、4月に予定していた1次試験を延期とする企業が続出し、4月下旬ぐらになるとwebを利用した試験が相次ぐようになってきました。ただし、2次試験は会社に来てもらっての対面での面接としたい企業が多いようで、1次試験は合格しても、その後活動がストップしてしまっている学生が多数おります。緊急事態宣言が本日（5月26日）から解除されましたので、これから本格的に活動が再開されるのではないかと考えております。

なお、来年度以降に就職活動をされる皆さんに

お伝えしますが、本校学生のほぼ全員は学校推薦で応募しております。一般応募に比べると極めて合格率は高いのですが、志望動機がうまく説明できなかつたり、自己アピールが乏しかつたりすると、不合格になる場合もあります。きちんと企業研究をするとともに、自己アピールの裏付けとなるような活動（後述する「高専で一番頑張ったこと」に重なります）にも積極的に取り組むようにお願いします。

進学を希望する学生は、大学で開催されるオープンキャンパスに参加するなどして大学を訪れてみるとよいでしょう。大学の雰囲気を感じることが出来ます。また、各コースの進学相談担当者に入試情報等問い合わせをすることも可能です。

最後に就職・進学ともに面接や応募書類で「高専で一番頑張ったことは」という質問がよくあります。学修の他、部活動や学生会、寮生会、ボランティア、海外経験等を積極的に利用し、それらの経験を披露できるような学生生活を送っていたきたいと思います。

表1 本科進路状況（5月25日現在）

コ ー ス		M	E	C	Z
卒業予定者数		43(3)	39(6)	34(16)	36(17)
就 職	希望者数	24(1)	22(5)	15(8)	22(13)
	求人社数 〔昨年同時期〕	692 〔749〕	730 〔758〕	470 〔482〕	494 〔501〕
	求人倍率	28.8	33.2	31.3	22.5
進学希望者数		19(2)	17(1)	19(8)	14(4)

( )女子内数

表2 専攻科進路状況（5月25日現在）

コ ー ス		AM	AE	AC	AZ
修了予定者数		9(0)	7(0)	10(2)	7(0)
就 職	希望者数	6(0)	3(0)	2(1)	3(0)
	求人社数 〔昨年同時期〕	624 〔668〕	659 〔676〕	428 〔426〕	456 〔448〕
	求人倍率	104.0	219.7	214.0	152.0
進学希望者数		3(0)	4(0)	8(1)	4(0)

( )女子内数

# 学 生 表 彰

## ○令和元年度 学年学業成績優秀賞

氏 名	進 級 後 ク ラ ス
<b>【1年次成績部門】</b>	
増 尾 桃 佳	機械システムデザインコース2年
熊 谷 大 智	電気情報工学コース2年
吉 田 幸 生	マテリアル・バイオ工学コース2年
武 井 柊 詩 朗	環境都市・建築デザインコース2年
<b>【2年次成績部門】</b>	
田 中 天 統	機械システムデザインコース3年
館 野 聖 南	電気情報工学コース3年
根 城 響 子	マテリアル・バイオ工学コース3年
土 岐 翔 洋	環境都市・建築デザインコース3年
<b>【3年次成績部門】</b>	
黒 沢 航 二 朗	機械システムデザインコース4年
武 田 浩 季	電気情報工学コース4年
北 上 偉 武 暉	マテリアル・バイオ工学コース4年
熊 谷 風 音	環境都市・建築デザインコース4年
<b>【4年次成績部門】</b>	
柳 沢 啓 斗	機械システムデザインコース5年
大 澤 士 竜	電気情報工学コース5年
三 浦 菜 々 美	マテリアル・バイオ工学コース5年
長 内 悠 真	環境都市・建築デザインコース5年
<b>【専攻科成績部門】</b>	
小 泉 匠 摩	機械システムデザインコース2年
東 山 聖 生	電気情報システム工学コース2年
横 浜 希	マテリアル・バイオ工学コース2年

## ○三ヶ年皆勤賞

機械システムデザインコース	電気情報工学コース	マテリアル・バイオ工学コース	環境都市・建築デザインコース
石 澤 輝	小 林 尚 平	蛭 名 曹 太	大 矢 桃 花
木 村 祐 大	高 瀬 徳 優	太 田 瑠 南	河 原 木 康 平
齋 藤 皐 滉	武 田 浩 季	川 畑 智 也	工 藤 千 紘
館 海 斗	田 中 陽 来	中 島 彩 稀	嵯 峨 大 成
田 中 大 陽	戸 田 悠 仁	中 山 陽 理	坂 下 翔 悟
丹 治 和 希	豊 島 遼 太 朗	畑 山 彩 華	佐 々 木 望 来
傳 法 知 輝	中 里 美 夢	山 道 優 真	粒 来 桃 子
細 野 叶 多	船 水 直 幹		中 居 由 佳
和 田 冬 馬	洞 内 涼 雅		浜 山 千 英
渡 辺 拓 巳	森 岩 昂 弘		張 間 遍
	類 家 健 永		藤 田 峻 輔

## 「保護者の声」設置について

保護者と学校の連携を密にし、よりよい教育を推進するため、下記のとおり「保護者の声」を設置しております。

お子さんの就学上のこと、学校に対する要望、ご意見など、無記名で結構ですので、郵便・電話・FAX・e-mail等で随時下記の連絡先までお寄せください。

### 《連絡先》

八戸工業高等専門学校 総務課総務係  
TEL 0178-27-7223 FAX 0178-27-9379  
e-mail:somu-o@hachinohe-ct.ac.jp

## 授業料等の納付について

後期分授業料の口座振替を、10月26日(月)に行います。(就学支援金額未決定者、授業料免除申請者を除く)

寮生は、10月～3月の寄宿料及び学寮運営費も併せて振替になります。

金額を確認のうえ、振替日前日までに届出口座にご準備ください。

単位：円

授業料		寄宿料		学寮運営費		振替 手数料
1～3年	4年～	複数室	個室国際寮	男子寮・女子寮	国際寮	
117,300	117,300	4,200	4,800	63,300*2	80,900*2	68
57,900*1						

※1 就学支援金受給対象者の例(加算支給なしの場合)

※2 学寮運営費の金額は変更となる可能性があります。

授業料等を期日(前期分9月、後期分3月)までに納付しない者は、授業料等未納により除籍などの処分になる場合がありますので、ご注意ください。

### 【問い合わせ先】

総務課財務係 TEL 0178-27-7228

## 学生課学生係からのお知らせ

令和2年4月から実施された高等教育の修学支援新制度に本校も対象となっております。本科4年生以上の学ぶ意欲がある学生で、家計の収入等の要件を満たす場合には、支援区分に応じて、入学科及び授業料の減免と給付奨学金による経済的支援を受けることができます。

秋頃に日本学生支援機構が在学採用を行う予定となっておりますので、日程等の詳細が分りましたら学校HPや学生掲示板等で周知しますのでご確認をお願いいたします。

また、現在申請可能な奨学金等の各種経済支援につきましても学校HPや学生掲示板等で随時更新しておりますので、併せてご確認をお願いいたします。

### 【各種経済支援関係問い合わせ先】

学生課学生係 TEL 0178-27-7235

## 令和2年度 公開講座

### 公開講座

<http://www.hachinohe-ct.ac.jp/info/office/openlecture/>

- (1) 環境都市・建築デザインコース公開講座 シリーズ ーブリッジコンテストー  
日 時：8月1日(土)  
対 象：中学生、保護者、中学校教員
- (2) 絵本を英語で読んでみよう  
日 時：8月8日(土)、10月31日(土)  
対 象：小学2～5年生(保護者同伴)
- (3) 化学の学校  
～マテリアル・バイオ工学の世界へようこそ!～  
日 時：8月19日(水) Web公開開始  
対 象：中学生、保護者、中学校教員
- (4) 環境都市・建築デザインコース公開講座 シリーズ ー水の環境調査ー  
日 時：8月29日(土)  
対 象：中学生、保護者
- (5) メカnoワールド体験塾 Aコース  
日 時：9月5日(土)  
対 象：中学生、中学校教員
- (6) ジュニアロボット教室  
日 時：9月26日(土)  
対 象：小学5年生以上、中学生
- (7) メカnoワールド体験塾 Bコース  
日 時：10月31日(土)  
対 象：中学生、中学校教員

※参加人数等により、中止または内容等を変更する場合があります。

